

# その一

## 嶺村法子

保育の仕事は職業として選択して十三年がたちました。

保育者としての私は、子どもの今を支えつつ、子どもTO共生活し、子どもNI私自身の身体を通して文化を伝え、子どもKARA学ぶ機会を与えられています。まさに、子どもTO・子どもNI・子どもKARA——だから、いただいた誌面を「**TO・NI・KARAひろば**」と名付けてみました。

都心に住む子どもたちの四季折々の姿や声を拾って、この小さなひろばからお届けできたらと思っています。

オフィスビルと大通り、路地ともんじゃやが混在する街、中央区月島。その街で今年四十九周年を迎える園児数約八十人の幼稚園が、今の私の勤務地です。

併設の小学校と共有の、ビルに囲まれたウォークトップの園庭にも春はやってきます。フェンスに囲まれた植え込みに、花壇に、プランターに。

もえぎ色の新芽がまぶしい春、二十三人の子どもたちと一緒に私も進級し、年長組の担任になりました。

そして、今年の春はこんな風に始まりました。

春はやっぱりよもぎまんじゅう  
乾燥よもぎは年中あるが 今しか摘めない  
よもぎの新芽

# トミカラ いろは

足取り軽く口ずさみつつ 園庭の隅の植え込みの中によもぎの新芽を探しに行く

「さきつぼの白いところね」

と摘んで見せても

「先生、これ？」

と大きな葉っぱを裏返し 白い方を見せて来る

「このね、ほら、こうやって大きい葉っぱを取っていったら、銀色の毛がついているところが残るでしょ。このところだけなの。ここが一番おもしろいんだって」

「ねえ、こうやって？」「これでいいの？」何度か摘んでいるうちに

今芽吹いたばかりのような銀色のよもぎがかごに少しずつたまってくる

「これくらいいいかな」「これくらいいいよね」

「さあ、じゃあこれをゆでて、ごりごりつぶしておまんじゅう作ろう！」

かごを持って駆けだして行く子どもたちを後から私も追いかける

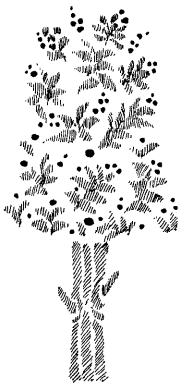
煮立った湯がさつと緑色に変わって

春の匂いが立ちこめる

すりこぎをえいっと回すたび

春だ春だと匂い立つ

どろどろこねこね ペたペたころころ…



# ◆◆◆◆ TOMIKARA ひろば ◆◆◆◆

職員室から廊下へ 玄関へ

あのなつかしい おまんじゅうをふかす匂  
いが流れ出す

おばあちゃんちに来たような…

「うわあっ！」「できたよ！」

はじけた生地の間から

苦勞して包んだあんが ちよつと顔を出し

たのやら

水をたつぷり付けられて

すべすべお肌になったのやら

とりどりに並んだ蒸し器の中から

朝から二時間の

子どもたちの思いが湯気と共に立ちのぼる

「ごちそうさま」「すこお、おいしかった！」

小さい組の先生からお礼を言われ

「やった！」「大成功！」

の 大きい組の春

「子どもたちとよもぎまんじゅうを作りたい」と提案した私を、「確かあの辺によもぎが生えてるわよ」「わあ、楽しみ。おいしいの作ってね」という声が後押ししてくれる。

気持ちよく火の番をしてくれる主事さんがいて、子どもたちの思いが形になる。

食を巡るいろいろな事件が後を絶たない中、煮炊きする湯気の中で保育できる幸せを思う。

道ばたの草々に季節を感じ、生活に取り入れて豊かに暮らしてきたこの国の文化を、共に生活するものとして子どもたちに伝えていきたいと思う。  
(中央区立月島第一幼稚園)